

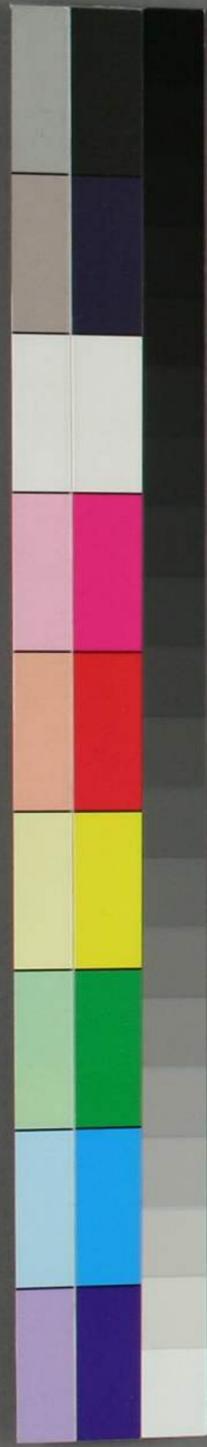
瘍科秘録

八之下

十武9

727

10



武9
727
10



頭痛

頭痛左カ右カ一方ニ限リテ痛ムヲ偏頭痛ト為シ百
會天庭及ヒ鼻梁骨ノ痛ムヲ正頭痛ト云フ至テ治シ
難キモノナリ多クハ宿疾ニナリ氣候ノ寒暄ニ移リ
或ハ風雨ノ催ス前ニ發スルモノナリ發スル_レ瘡ノ
如ク時_{カキリ}ヲ期テ痛ミ時_{カキリ}ヲ期テ止ム多ハ平旦ニ發シ午
後ニ至レハ止ムモノナリ頭痛發スル_レ片ハ刀錐ニテ
刺カ如ク少シモ目ヲ開ク_レ能ハス涙及ヒ清涕滴瀝
トシテ出成ハ頭顱ニ微腫ヲ催シ惡心嘔吐甚シク黃
水酸汁ヲ吐キ飲食藥餌等モ一切納ラヌ様ニナル者

アリ其人痛ニ堪ス呻吟顛倒シ家人モ愴皇シテ急
 遽ニ醫ヲ迎ヘテ介抱スル中ニ休期ニ至レハ劃然ト
 シテ止ムヲ忘ル、カ如シ明日ニ至レハ又發スル
 前日ノ如ク毎日如是ヲ延テ數十日ニ至リ或ハ二三
 月ニ至ルモアリ或ハ朝夕ニ緩急ノアルノミニテ始
 終痛ミノ去ラヌモアリ又卒ニ頭痛スルヲ頭顱ノ破
 ル、カ如ク涙涕頻出心煩喜嘔等ノ症并ニ起リ反覆
 顛倒シテ暫クモ眠ルヲ得ス朝ニ發シテ夕ニ死シ
 夕ニ發シテ朝ニ死スルモノアリ真頭痛ト名ク頭痛
 ノ急證ニテ恐ルヘキモノナリ又天庭印堂及ヒ顴骨

ノ邊疼痛シテ涙涕ヲ流シ殆ト偏正頭痛ノ如ク時ニ
 緩急アレト全愈セスシテ二三年ニ至リ或ハ八九年
 ニ至ルモノアリ是モ又偏正頭痛ニ屬シテ可ナリ雷
 頭風モ頭痛ノ一證ニ屬シテアレト實ハ眼病ナリ初
 發頭痛發熱嘔吐等アリテ感冒中暑ノ様ニ見ヘ一ニ
 日ノ内ニ瞳孔散大シテ烏睛曇暗色ニナリ腐タル鰓
 ノ眼ニ似テ乍チ明ヲ失スル者ナリ決シテ不治ト為
 スベシ不紊内ノ者ハ徒ニ偏正頭痛ノヤウニ心得テ
 居ル内ニ失明シテ惡名ヲ取ルヲ多シ頭痛ノ強キ病
 ニハ此所ヘ注意シテ失策ノ無キヤウニスベシ凡偏

正頭痛ハ勿論諸病ノ頭痛ニテモ必ス嘔吐ヲ發スル
 モノナリ是ハ西洋ノ説ヲ聞クニ神經トテ内外ノ知
 覺ヲ司トルモノ有リ其一經ニ頭中ヨリ起リテ胃脘
 ヲ纏フモノアリ故ニ頭痛甚シキトキハ必嘔吐ヲ發
 スト云ヘリ予モ實地ノ上ニテ攷究スルニ確説ノ様
 ニ思フナリ一婦人額上掌ノ大サ程冷ル丁水ヲ灌カ
 如ク覺ユ日暮ルトキ尤甚シク氷ニテモ載ルカ如シ
 ト云フ淚涕ノ出ル丁偏正頭痛ニ同シ其人冷ルニ堪
 魚ルトテ小布團ヲ作り常ニ額上ヲ覆フ痛ミハ十ヶ
 レ氏頭痛ト同因ノ見込ニテ沉香天麻湯ヲ與ルニ速

ニ効アリテ全愈ス○治法頭痛ノ妙藥ト云ハ家試阿
 芙蓉液ナリ發スルトキニ三十滴許モ用フルトキハ
 痛ミ立ドコロニ止テ忘ル、カ如シ明日又與フル丁
 前法ノ如ク如此十餘日ニ至ルトキハ痛漸クニ退キ
 テ全愈スルナリ内藥ハ川芎茶調散防風通聖散ヲ撰
 用スヘシ又蒂辛散至靈散ヲ鼻中へ吹入スベシ又醋
 一升へ木炭ヲ碎キニ合程入レテ煎シ患處ヲ熨ベシ
 寒熱ノアル者ハ柴胡桂枝湯嘔吐ノ甚シキ者ハ半夏
 瀉心湯六君子湯虛冷ニ屬スル者ハ半夏白朮天麻湯
 沉香天麻湯ヲ撰用スベシ

頭痛主治方

半夏白朮天麻湯東垣治脾胃虛弱。痰飲頭痛

半夏

陳皮

麥芽

白朮

神麩

人參

黃芪

天麻

茯苓

澤瀉

乾薑

黃柏

生薑

右十四味

水煎服

乳香散

聖濟

治偏頭痛。不可忍

乳香

高良薑

右二味

於火上燒

迎烟熏鼻。隨痛左右用之

至靈散

肘後

治偏頭痛

雄黃

細辛

右二味研令細

每用一字

吹入鼻中

消石散

治頭痛欲死者

消石

研末

右一味

吹入鼻中

阿芙蓉液

家試

治偏正頭痛

寒疝急痛

咳嗽不寐等諸證

有神驗

阿芙蓉

再滴火酒

右二味

硝子

罌

入

紫色

變

丸

待

淳

去

密封

大陽

二晒

ス

一數

日

自

準

亭

成

。

三五

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

出ル丁過多ナルトキハ崩漏腸風等ニテ亡血スルト
同シニテ面色萎黄唇舌刮白ニ變シ虚里ノ動悸爛カ
如ク衣ノ外へ應スル様ニナリ胸脇苦滿呼吸促迫耳
鳴眩暈一身微腫等ノ諸證並起リ四肢倦怠シテ力作
ハ勿論歩行モナラス黄胖ノ如クニナルモノナリ如
此ナリテハ死セスト雖氏因循トシテ故ニ復シ難シ
故ニ亡血セヌ内ニ能ク療治スベキ丁ナリ一男兒年
十三歳衄血スル丁一次五六合ニ至リ總身ニ班ヲ發
スル丁小ナル者ハ麻子ノ如ク大ナル者ハ菽ノ如ク
色赤キモアリ紫モアリ青藍モアリ是ハ青腿牙疳ノ

牙縫ヨリ多ク出血シテ總身ニ班ヲ發スルト同シ丁
ナリ面色萎黄ニ變シ虚里ノ動悸築トシテ衣ニ應
シ微熱アリテ床蓐ニ伏ス醫藥ヲ加ヘ衄血モ止ミ發
班モ過半ハ消シタル頃ニ至テ又衄血發班スル丁前
日ノ如ク後ニハ癖ニナリテ一月ニ一次或二次ニ至
リ萬方スレ氏全愈セヌ終ニ疲極シテ死セリ是ハ衄
血中ノ異證ニテ希有ノ事ナリ一女子頓嗽ヲ患ヒ日
ニ衄血スル丁數次ニシテ止マス山根及目眶ノ邊藍
色ニ變シ打撲ニテ青班ニナリタルカ如ク眼中赤ク
シテ深ルニ似タリ青龍麻杏合方ヲ與ヒ洗塵散ニテ

患處ヲ洗フ丁月餘ニシテ全愈ス是モ亦奇證ナリ温
 疫ニテ邪氣ノ大陽少陽ノ部位ニ入タル頃衄血スル
 ハ至テ吉候ナリ其儘熱ノ解スモアリ又戰汗ヲ發シ
 テ愈ルモアリ痘瘡ニテ衄血ノ出ルハ至テ凶兆トス
 痘毒ノ壅滯シテ溢レ出タルナリ衄血ノ出ル程ナレ
 ハ痘瘡モ必紫黑色ニシテ難治ナリ○治法輕症ハ綿
 ヲ金公水及蘿蔔ノ絞リ汁藕根ノ絞リ汁等ニ浸シ鼻
 竅ヲ過防シテ止ムナリ又項後髮際ノ穴ニ灸ヲ炷ル
 モヨシ又病人ノ手ノ中指節絞ノ處ヲ線ニテ緊シク
 紮ベシ若左ノ鼻竅ヨリ出ルハ右ノ手指ヲ紮リ若右

ノ鼻竅ヨリ出ルハ左ノ手指ヲ紮ルベシ若左右共ニ
 出ルハ左右ノ手指ヲ紮ルヘシ以上手段ニテ治シ難
 キ者ハ灌水スヘシ其法手帕ヲ横ニ四重ニ疊ミ冷水
 ニ醮シ面上ヲ覆ヒ徐々ニ引テ頂ニ至リ又冷水ニ浸
 シ再術ヲ施ス丁前法ノ如ク數回ニ及フトキハ必ス
 止ムモノナリ此法ハ予曾テ春林軒ニ游學ノ時青洲
 翁手自ラ此術ヲ予カ頭上ニ施シテ傳ヘタリ故ニ特
 ニ此術ノ秘蘊ヲ知ル丁ヲ得タリ又法藤紙ヲ幾重ニ
 モ疊ミ大サ五寸四方ト為シ冷水ニ浸シ頂上ニ置キ
 熱尉斗ヲ以テ紙上ヲ尉シ紙乾クトキハ血立トコロ

ニ止ムモノナリ内服ニハ三黄湯加犀角。犀角地黄湯ヲ撰用スベシ若諸藥効ナキトキハ阿芙蓉液四十滴許用ユベシ微頭痛シテ數衄血スルハ涼膈散加石膏。防風通聖散ニ宜シ衄血ノ後ニ血故ニ復セス虚悸頭眩耳鳴等ノアルニハ連珠飲。大補湯ヲ撰用スヘシ虚里ノ動悸如煽。呼吸促迫。四肢倦怠シテ步行ナラヌ證ニハ家試黄胖丸ヲ兼用ニスベシ

衄血主治方

黄胖丸家試治黄胖。及脱血下為黄胖者

厚朴各十錢 白朮各十錢 陳皮各十錢 神麩各十錢 大棗各十錢

綠礬炒四錢 甘草二十錢 醋適宜

右七味散ト為シ大棗ヲ剥テ核ヲ去リ醋ヲ以テ煮熟シ研テ泥ノ如クニ至リ米糊及散ヲ入レ又研テ調勻シ丸ト為シテ日ニ九十五錢ヲ用ユ

三黄湯 犀角地黄湯 凉膈散 防風通聖散
連珠飲 大補湯 鍼砂湯

ルモノニ多シ初發項背強痛シ頭痛發熱惡寒等アリ
テ咽喉腫痛ス杉箸二枝ヲ紙ニ裹ミ舌ヲ押ヘ病人自
カラ氣息ヲ内ヘ引クトキハ洞ニ見ユルモノナリ左
右ヨリ丸ク腫レ出シ深紫色ニナリテアリ飲食ハ勿
論津唾ヲ嚥テモ痛ミ甚シク齒牙ノ盡ル處及ヒ舌本
マテモ腫レテ牙關微シク緊急ン口モ縱意ニ開キ難
ク言語モ不自由ニナリ頤ノ下邊ニ累々ト核ヲ結ビ
幾ト飲食ヲ廢ス是ハ一通ノ喉痺ニテ治シ易ク決シ
テ死スルナシ六七日モ經レハ自ラ潰破シ膿血出
テ、速ニ愈ルナリ後ニハ癖ノヤウニナリテ再發ス

ルモノナリ急喉痺ハ又走馬喉痺トモ云テ迅速ノ病
ナリ古書ニモ暴發暴死ト斷ハリテアリ纏喉風ト云
モ腫ノ外ヘ透達シテ咽喉ヲ纏タル意ニテ實ハ急喉
痺ノ一證ナリ急喉痺ノ候ハ咽喉暴ニ腫痛閉塞シ痰
涎壅盛ニナリ聲モ啞シテ發セス呼吸モ滯リテ利セ
ス咽喉ノ外モ微腫シテ色ヲ變シ舌上黃胎或ハ黑胎
ニナリ惡寒發熱頭痛等強ク其狀疫ノ如ク藥餌一滴
モ下ラス二三日ニシテ死スルモノナリ死シテ後膿
ノ口鼻ヨリ出ルナリ一男子咽喉腫痛ヲ患ヒテ予
ヲ迎フ病人爐邊ニ夷踞シテ診ヲ請フ予一手ヲ握リ

テ未夕診シ終ラサルニ病人卒然トシテ起キ又卒倒
 シテ死セリ後間アリテ膿口鼻ヨリ出タリ是ハ全ク
 膿ノ氣道ニ入りテ死シタルナリ纏喉風ト為スヘシ
 喉痺ニテ死スル證ハ常ノ喉痺ヨリ一段深キ處ニテ
 腫ル、故食道氣管共閉塞シ幸ニ自潰スルモ膿血氣
 管ニ入り呼吸ヲ絶テ死スルナリ喉癰ト云フモ咽喉
 ノ腫痛スル病ナレハ喉痺ニ混スヘカラス其候初發
 咽喉微痛シテ飲食モ染ミ津唾ヲ嚥ムニモ痛ミ内ノ
 微腫スルモノト見ヘテ結喉ノ邊ヲ按スレハ微痛ヲ
 覺ユルナリ聲モ啞シテ發セス但涎沫ヲ吐ク丁多ク

數唾壺ヲ傾ルニ至ル久シク愈スシテ遂ニ骨立脱肉
 シ初テ咳嗽寒熱等ヲ起シ虚勞ニナリテ死スモノナ
 リ是證咽喉結毒ナト、疑似スルユヘ熟視スルニ腐
 蝕シタル處ナク但糜爛シテアルモノナリ癰毒ニ非
 ルヲ決診スヘシ虚勞モ久シキトキハ咽喉痛ンテ
 飲食ノ染ルヤウニナルナリサレハ喉癰モ虚勞ノ一
 證ト為シテ可ナリ○治法初發ハ項背ノ強バルヲ目
 的ニシテ葛根湯加石膏ヲ與ヘ金鎖ヒヲ吹クベシ其
 儘ニ消散スルモノ有リ腫痛益甚シク膿ニ成ラント
 スルノ勢アラハ涼膈散加石膏ヲ用ヒ草兵丸ヲ兼用

ニシテ一先下スベシ膿ニ成リタルハ鍼ヲ刺スヲ上
策トス若鍼ヲ刺ス一甚早キトキハ却テ衝動スルユ
へ腫痛ノ増劇スルモノナリ熟診シテ其端的ノ度ヲ
知ルヘシ赤ク腫レタル上ニ白點ノ班々ト出ルハ膿
成ルノ候色ノ紫暗ニ變スルハ瘀血凝滯スルノ徵何
レモ刺シテ膿血ヲ去ルベシ膿血多ク出ルトキハ痛
ミ失スルカ如クニ去リ飲食モ從テ進ミ速ニ愉快ヲ
覺ユルモノナリ若シ怯懦ニテ鍼ヲ恐ル、モノニハ
筆鍼ノ法ヲ施スベシ張果ノ醫說ニ云ク李王公主患
喉癰數日痛腫飲食不下醫官言須鍼刀開方得潰破公

子聞用鍼刀哭不肯治痛逼水穀不入忽有一草澤醫曰
某不使鍼刀只用筆頭蘸藥癰上霎時便潰公主喜遂令
召之方兩次上藥遂潰出膿血一盞餘便寬兩日瘡無事
令傳其方醫云乃以鍼繫筆心中輕々劃破其潰散爾別
無方長文ナレトモ面白キ話ニ此ニ記シテ傳フ纏
喉風ニハ驅風解毒湯ニ石膏ヲ多ク入レテ用フベシ
石膏ハ咽喉ニ効ノアルモノナリ何方ヘモ石膏ヲ加
ヘテ用フルヲ佳トス咽喉壅閉シテ藥餌一滴モ下ラ
サル者ハ手段ナシ咽喉ノ左右ヘ大發泡ヲ施スベシ
又尺澤ヨリ刺絡又足ノ少商ヨリ瀉血スベシ冰硼散

紫雪等ヲ吹モ佳ナリ喉癰ハ涼膈散ノ甘桔ヲ倍シテ
用ユ虚證ニハ甘露飲ヲ用フベシ

喉痺主治方

驅風解毒湯 回春 治疔瘰腫痛 春林軒用此方
以治咽喉諸證

防風 荆芥 羌活 連翹 牛房子

甘草 各等分

右七味水煎服

葛根湯加石膏 涼膈散加石膏 甘露飲

草兵丸 金鎖七 冰礪散 紫雪 發泡膏

痰泡

痰泡ハ舌下ノ左右微ニ靨腫テ大サ拇ノ如ク色赤ク
シテ透徹ヤウニ見ユルモノナリ初メハ格別ノ障リ
モナケレトモ漸大ニナルニ後ヒ舌本強リ微ク痛ミ
言語飲食モ不自由ニナルモノナリ指頭ニテ按スル
ニ軟綿ニシテ中ニ水ニテモ畜ヘタル手應ノアルモ
ノナリ鍼ヲ刺ストキハ粘膠黄水ノ出ル丁脂瘡ニ同
シ若久シク治セサルトキハ其毒流注シテ頷下或ハ
頰下及頸ノ邊ニ腫レ出シ大サ茄子ノ如ク又甜瓜ノ
大サニ至ルモ有リ皮色微シモ變セズ焮熱疼痛等モ

無ク全ク癭瘤ニ似タリ右手ヲ以テ腫上ヲ壓シ左手
ヲ以テ痰泡ヲ按シ内外ヨリ互ニ相按スルヲ緩急抑
揚シテ試ルトキハ内外相通シテアルヲ分明ニ知ル
ベシ又外ノ腫上ヲ刺ストキハ粘稠ノ黄液出テ、舌
下ノ腫モ從テ消シ舌下ノ腫ヲ刺ストキハ外ノ腫モ
亦從テ消スルヲ外腫ヲ刺スニ同シ以上ノ徵候ニ因
テ考ルニ實ハ舌下ノ脂瘤ニテ必シモ痰ノ留滯シタ
ルニハ非ス服藥吹藥等ハ一切寸効ナシ截断ノ法ヲ
上策トス○治法舌下ヲ刺シテ黄液ヲ去ルトキハ一
且ハ治スレトモ鍼口ノ愈ルニ從テ又黄液溜リテ再

發シ至極治シ難キモノナリ予ハ新作意ニテ鍼口へ
剪刀ヲ入レテ膜ヲ柿核ホト剪ミ去ルトキハ復黄液
ヲ蓄ヘス創口へ金鎖ヒヲ吹キ凉膈散加石膏ヲ用フ
ルトキハ全愈シテ再發セス外へ腫レ出シテ癭瘤ノ
如クニナルモノハ外ヨリ刺シテ黄液ヲ去リ破敵メ
イチヤニ赤汞丹ヲ塗テ挿入スヘシ黄液日ニ減シテ
内外共消スルナリ或ハ刺シテ後却テ焮熱腫痛ヲ起
シ稠膿ノ多ク出ルヲアリ驚クヘカラス破敵メイチ
ヤヲ一日ニ二度ツ、モ挿更ルトキ膿水自カラ減シ
テ愈ルナリ内服ハ柴胡加石膏ニ宜シ

痰泡主治方

涼膈散加石膏 小紫胡湯加石膏 金鎖匕 破敵 赤汞丹

癩科秘鑑 卷八
痰泡主治方
涼膈散加石膏 小紫胡湯加石膏 金鎖匕 破敵 赤汞丹
癩科秘鑑 卷八
痰泡主治方
涼膈散加石膏 小紫胡湯加石膏 金鎖匕 破敵 赤汞丹

重舌

重舌ハ俗ニ云フ「コシタ」ナリ大人ニ少ク小兒ニ多シ
舌下へ息肉ヲ生シ尖起シテ舌端ノ如シ長サ七八分
ニ至ルモアリ左右へ二片ニナリテ生スルモアリ或
ハ數片ニナリ舌本ヲ圍テ蓮花ノ形ニ出ルモノヲ蓮
花舌ト云フ何レモ一病ナリ腫痛シテ舌モ木強ニナ
リ言語飲食等モ不自由ニテ多ク涎ヲ流シ頷下ニ核
ヲ結ヒ大サ梅子ノ如クニシテ痛之或ハ色ヲ變シ或
ハ膿ヲ成スモアリ幼少ニテ未夕言^{チイ}ス痛所ヲ告ル
ノナラヌモノ卒ニ乳ヲ嘔ス但氣ムツカシク涎ヲ多

ク流シ頷下ノ漫腫スルモノハ必重舌ナリ常ニ診法
ヲ心得テ治法ヲ誤ルヘカラス下總佐倉ノ藩臣勝間
為五郎ト云フ者アリ舌下微腫シテ痛ミ一醫ヲ引テ
治セシムルニ重舌ノ類ナリトテ吹藥ヲ點スルニ一
夜大ニ痛ミ自潰シテ一箇ノ石ヲ出シ痛ミ失スルカ
如クニ愈ユ瘡痕凹ニシテ菽ヲ容ルヘシ石モ菽ノ大
サニテ堅シ予其石ヲ乞フテ近頃マテ蔵セシニ類焼
ノ時烏有トナレリ又下總佐原ノ一醫ノ療治ニ一男
子舌心ニ小核ノアル丁數年漸大ニナリテ初テ痛ヲ
發ス醫刺シテ血ヲ出スニ一片ノ石創口ヨリ出テ、

愈タリト友人山本貞淳ノ物語ナリ古書ニ瘡石癖石
石瘻等ノ丁アレ氏舌ヨリ石ノ出タルコトヲ言ハス
崎陽ニ游學ノ時西洋醫シイホルトニ此事ヲ物語シ
ニ「ト」クステイン「ト」云フ病ナリト云ヘリ後ニ杉田
錦腸翁ノ譯セシ「ブレンキ」ノ外科書ヲ讀ムニ其事ヲ
載セテ舌石ト譯シテアリ珍シキ丁ナリ初發ハ重舌
ナトニモ混シ易キモノナレハ此ニ記ス○治法先患
處ヲ刺シテ血ヲ出シ氷硼散金鎖ヒノ類ヲ吹キ凉膈
散加石膏尚足飲ヲ撰用スベシ寒熱ノアルモノハ柴
胡加石膏ニ宜シ又頷下へ發泡ヲ施スヘシ若キ手段

ニテ治セサルトキハ息肉ヲ剪断シテ前法ヲ用フヘ
シ舌下ナリトテ遠慮スルニ及ハス縦意ニ鍼刀剪断
ノ術ヲ施シテ害ヲナサス

重舌主治方

凉膈散加石膏 尚足飲 小柴胡湯加石膏 冰硼散
金鎖匕 發泡

木舌

木舌ハ木強ニシテ柔和ナラサルノ意木腎ナト、同
義ナリ發熱惡寒シテ舌丸クナル程ニ腫レ短ク縮リ
テ齒牙ノ外へ出ス木強ニシテ卷舒スルヲ能ハス胎
厚クシテ黄色或淡黑色ニナリ牙關微ク緊急シ縦意
ニ口ヲ開クヲ能ハス第一ニ飲食ヲ妨ケ甚者ニ至テ
ハ幾藥餌ヲ絶ツ痰涎多ク出テ、咽喉ヲ閉塞シ呼吸
ノ邪魔ニナリ又舌へモ粘著シテ吐ケトモ出テス吞
トモ下ラス箸ニテ搦取ニ粘稠テ断ヌモノナリ聲音
モ低ク言語モ含糊トシテ分明ナラス微痛スルモノ

有レトモ痛ミノナキ者多シ藥ノ能ク通ラヌ病ユ
 へ療治モ思フヤウニナラス因循ト日ヲ延^キ愈カ子ル
 モノナリ重證ニ至テハ痰涎ニテ呼吸ヲ絶チ卒死ス
 ルモノ有リ至極危険ノ病ナレハ油斷ナク注意シテ
 療治ヲ施スヘシ一男子年四十二歳適^タ瘡ヲ患フ嚮^キニ
 モ數回瘡ヲ患シユヘ格別ニモ思ハス居ルニ一日食
 ニ臨テ噎シテ下ラス悶絶シテ死ナントス予診スル
 ニ脉浮ニシテ數ナラス舌木強ニシテ卷舒セス短縮
 シテ齒牙ノ外へ出テス胎厚クシテ米粉ニテモ傳^{ツケ}ル
 カ如ク粘稠シタル痰涎口舌咽喉へ膠固シ愈吐ケハ

愈出テ遂ニ除キ去ル^レ能ハス語言モ分明ニ云フ^レ
 ナラス牙關緊急シテ口ヲ開ク^レナラス腹ハ飢レト
 モ飲食スル^レ能ハス糊飲一酒盞ヲ一日ノ食トスソ
 レモ坐シテハ飲^レナラス強テ飲トキハ鼻ヨリ出ツ
 仰^{アホ}卧シテ徐^クニ滴スノミ服藥モ亦此法ニテ入ル、
 故一小盃ニ過キス初ハ甘桔湯加山豆根ヲ與ヒ冰硼
 散ヲ水ニ解キ舌上ニ點シ頷下へ發泡ヲ施スニ寸驗
 ナシ後ニ涼膈散加石膏ヲ與フ又効ナシ疲勞日ニ加
 へ肉燂骨立シ荏苒トシテ日ヲ延^キ二十餘日ニ至リ
 自分モ死ヲ決シ親屬ニ後事ヲ託スルニ至レリ予モ

他ノ伎倆ナキユヘ矢張前法ヲ用ヒテ堅守スルニ諸
證漸々ニ緩ミ飲食モ少シツ、通ルヤウニナリ五十
餘日ヲ經テ全愈ス氣力ノ故ニ復スルマテニテハ百
日ニ及ヘリ一兒年ニ歳卒ニ乳ヲ哺セス母強テ乳頭
ヲ兎ノ口中ヘ入テ勸ルニ但含タルノミニテ一口モ
哺セス乳ヲ杯ニ絞リテ與フルニ常ノ如クニ飲ミ外
ノ食餌モ常ノ如クニ食シ又乳汁ヲ嫌フニモ非スト
見ヘテ常ニ乳頭ヲ含ムヲ求ム母ハ乳房脹リテ難
儀ユヘ醫ヲ更テ色々ニ療治スレ尺寸驗ナシ終ニ乳
ヲ哺セス母モ其内ニ乳汁出ヌヤウニナリ惟糊飲軟

飯ノ類ヲ調理シテ養育セリ何故ニ乳ヲ哺セザル事
カ知ルベカラス當時熟視スルニ乳鵝風鵝口瘡重舌
等ニモ非ス若木舌ノ類ニモ有リヤ此ニ書シテ後攷
ニ備フ○治法内藥ハ尚足飲涼膈散加石膏甘桔湯加
山豆根甘露飲ヲ撰用スヘシ外用ハ冰硼散金鎖七等
ヲ水ニ解テ塗ルヘシ頷下及耳下ヘ發泡ヲ施シ舌下
ノ絡脈ノ怒脹シテ紫色ニナリタルヲ刺シテ血ヲ瀉
スヘシ諸藥効ナクシハ本事方ノ治木舌方奇驗アリ
木舌主治方

治木舌腫脹方 本事

玄參

升麻

大黃

犀角

各三分

甘草

兩半

右五味水煎服。

尚足飲

涼膈散加石膏

甘桔湯加山豆根

甘露飲

冰硼散

金鎖七

發泡

八二鵝口瘡

燕口瘡

鵝口瘡ハ俗ニ「シラシタト云フ小兒初生ノ病ナリ初
 發ハ舌上及ヒ上腭ニ班々ト白點ヲ發シ乳渣ニテモ
 付タルヤウニ見ユルモノナリ二三日内ニ口舌及
 唇マテモ一圓ニ白ク米粉ヲ敷タルヤウニナルモノ
 ナリ舌腫痛シテ不自由ニナルト見ヘテ乳ヲ吸カ子
 或ハ一向飲マヌモアリ久シク愈サル寸ハ啼叫シテ
 止マス遂ニ驚癇ヲ發スルトモアレハ忽略ニセスシ
 テ早ク愈スヲ專務トス大人ノ鵝口瘡ハ微ク因ヲ異
 ニス癰疽温疫痢病久シク愈ス及産後等ニテ虚脱シ

タル者ニ有リ口舌腫痛シテ白點ヲ生シ真白ニナリ
 テ米粉ヲ敷カ如シ飲食モ一向ニナラヌ様ニナリ至
 極ノ虚候ニテ治シ難シ白砂胎ト云フモ此證ヲ指ス
 ナルヘシ但鵝口瘡ノミ惡候ト為スニ非ス一體本病
 カ大病ユヘ治シ兼ルナリ
 燕口瘡ハ病源候論ニ載ス俗ニ鴉ニ灸ヲ炷ラレタリ
 ト云フ左右ノ口吻腐爛テ白クナリ灸瘡タルニ似タ
 リ常ニモ痛ミ欠ニモ笑フニモ裂ル氣味ニテ痛ミ難
 儀ナルモノナリ小患ナレト久シク愈カ子ルナリ大
 人ニモ了レト先幼少ノ者ニ多シ

小兒唇ノ周圍赤クナリ丹毒ノ如ク肌膚ト齊クシテ
 微モ腫レス微ニ痛痒アリ舌ニテ舐リ潤セハ姑ク愉
 快ヲ覺フ故ニ常ニ舐リテ止マス愈舐ルニ從テ愈蔓
 延シ舌ニテハ届カヌヤウニナリ手背ヲ舐テ潤スニ
 至リ半面赤フシテ染ルカ如ク至テ治シ難シ○治法
 鵝口瘡ハ金鎖匙ヲ井華水ニテ解キ筆ニテ患處ヘ點
 スル一日ニ五六次甘連大黃湯ヲ與フ若シ此法ニ
 テ驗ナキ寸ハ草兵丸ヲ與ヒ水研散ヲ水ニテ解キ點
 スル一前法ノ如クニス燕口瘡ハ乳香散ニ宜シ唇ノ
 周圍赤色ニ變スルモノハ神水膏ヲ患處ニ摩擦シ尚

足飲ヲ與フヘシ

鵝口瘡主治方

甘連大黃湯

金鎖匙

水礪散

乳香散

草兵丸

尚足飲

神水膏

牙疳

牙疳ハ齦縫消燦シ齒牙宣露スルユヘ又宣露風ト名
 ケ亦牙宣トモ云フ俗ニ「ハクサ」ト云フ初發惡寒發熱
 頭項強痛等ノ症アリテ感冒ノ如ク齦縫腫痛シテ紫
 色ニ變ス試ニ指ニテ齦縫ヲ按ニ膿血微ク出テ氣息
 甚臭ク顯頰下邊ニ累々ト核ヲ結ヒ諸症輕粉劑ノ瞋
 眩ニテ口中ノ腐爛スルニ似タリ漸久キ寸ハ齦縫肉
 脫シテ齒牙動搖シ或ハ脱落スルモアリ小患ナレハ
 至テ治シ難キモノナリ時ニ因テ緩急ハアレハ決シ
 テ膿ノ止ムナシ日久クシテ齒牙盡ク脱落スル寸

ハ膿自ラ止ムモノナリ因テ考ルニ此ノ病ハ其毒齒
 根ニ附テ有ユヘ治シ難キナリ附骨疽ノ毒ノ骨ニ附
 テ治シ難キト同シ癰瘡ヘ輕粉劑ヲ用フルニ齒牙ノ
 有モノハ齦縫必ス腐爛シ齒牙ノ無キモノハ微モ腐
 爛セス牙疳ノ齒牙脱落シテ膿ノ止ムハ此ノ意ヲ推
 テ知ルヘシ

走馬牙疳ハ牙疳ノ急症ナリ走馬ハ迅速ノ義ニテ急
 喉痺ヲ走馬喉痺ト云フニ同シ自然ニ發スル者モア
 レ氏先痘瘡麻疹ノ後ノ餘毒ニテ發スル丁アリ痘瘡
 起脹灌膿ノ頃ニ至リ數切齒ヲシ氣息ノ臭キモノハ

後ニ牙疳ヲ發スルノ候ナリ此症ノ初發ハ寒熱疫ノ
 如ク齦縫腫痛シテ紫暗色ニ變シ下潰爛シテ膿血ヲ
 出シ或ハ紫血ノミ大ニ逆リ齒牙動搖シテ多ハ脱落
 シ其毒唇舌及ヒ顙頰ヘ浸淫シ硬ク腫レテ黑靨ニナ
 リ臭水ヲ流シ幾處モ孔ヲ穿テ或ハ兩頰共ニ脱落シ
 テ口中ノ洞ホウカニ見ユルヤウニナリ或ハ唇ヨリ鼻マテ
 脱落シ臭氣益甚ク一室ニ滿ルニ至ル舌上厚ク黑胎
 ヲ生シ痰涎口舌ニ凝滯シ六七日ニシテ死ス或ハ十
 餘日ニシテ死スルナリ家嚴研堂先生ノ療治シタル
 中ニ某氏兄弟三人一時ニ牙疳ヲ發ス其熱疫ノ如ク

齧縫腫痛腐爛シテ膿血流出シ其勢迅速ニシテ即走馬牙疳ナリ日ニ齒齧ヲ刺テ血ヲ出シ崑崙散ヲ傳ケ尚足飲ヲ與ヘテ皆愈ユ三人一時ニ牙疳ヲ發スルハ不審ナリ痘瘡麻疹モ一種ノ雜氣ニテ痘疹ノ後ニ牙疳ヲ發スルニ因テ考レハ是等ノ證ハ雜氣ニ感シタルナルヘシ○治法緩急二症共ニ至テ治シ難シ諸方書ノ方法ハ勿論諸名家ノ禁方及俗間ノ妙藥等マテモ試テ凡一百餘方ニ至レ氏未タ根治スルノ良術ヲ得ス然レ氏歷驗スル所ノ手段ニテ十中ノ一二ヲ治スヘシ初發齧縫腫痛シテ寒熱甚キ者ハ齧縫ヲ刺シ

テ血ヲ出シ金鎖匙ヲ傳ケ尚足飲涼膈散ヲ撰用スヘシ久シク愈スシテ齧縫消燦齒牙宣露スル者ハ乳香散崑崙散ヲ傳ケ甘露飲ハ珍湯ヲ撰用スヘシ走馬下疳ハ齧縫ヲ刺テ血ヲ出シ涼膈散加石膏犀角ヲ與ヘ然雪ヲ兼用トス便秘スルモノニハ草兵丸ヲ與フヘシ又含嗽劑ニテ穀口ヲ嗽キ金鎖匙ニ人中白ヲ加ヘテ傳ケヘシ黃連解毒湯加犀角三黃湯加石膏犀角等ヲ撰用スヘシ若顯頰マテモ腐敗スルモノハ疔瘡ノ門ヲ參考シテ治法ヲ施スヘシ

牙疳主治方

尚足飲

涼膈散

甘露飲

黃連解毒湯加犀

角

三黃湯加石膏犀角

含嗽劑

草兵丸

紫雪千金翼

金鎖匙

乳香散

崑崙散

Blank columns for text on the right page.

附牙癰

附牙癰ハ準繩ニ出ツ又牙癰凡云フ又百効方ニ牙癰
 風ト見ユ此病陰陽ノ二證アリ陽發ノ者ハ初起齒根
 痛之齦縫急ニ焮腫熱痛シ五六日ニシテ自カラ潰爛
 ス癰ノ形ニナリテ膿血流レ出テ臭氣ヲ生シ齒牙動
 キ或ハ脱落スルモアリ其毒唇ハ勿論頷下及頭面ニ
 波及シテ微腫スルナリ惡寒發熱頭痛等モアリ此證
 走馬牙疳ニ疑似シキヤウナレ凡牙疳ノ毒ハ全齒ニ
 發シ此證ハ必ス一部分ヲ定メテ發ス此其ノ差別也
 得ト診法ヲ詳ニシテ治法ヲ誤ル丁ナカレ陰發ノ者

ハ老人ニ多シ初發齒齲硬ク腫テ久ク消セス數月ヲ
 經テ自ラ潰ヘ稀膿痰水滴瀝トシテ出テ漸ニ瘡口
 濶大ニナリ小息肉簇生シテ瘡中一杯ニ盈テ其形鰻
 魚ノ縁ニ似タリ金鎖匙。冰礪散。崑崙散ノ類ヲ頻ニ外
 用スレト微モ消磨セス瘡口ノ漸大ニナルニ從テ小
 息肉モ亦愈多クナリテ穢氣薰蒸ス乃翻花ナリ遂ニ
 齒牙脱落シ膿血止ス身體羸瘦。飲食減少シ疲勞ヲ極
 テ死ス愚按スルニ陽發ノ者ハ王肯堂ノ所謂附牙癰
 ニテ治スベシ陰發ノ者ハ春林軒ニテ唱ル附牙癰ニ
 テ治セス陰發ノ證ハ實ハ翻花瘡ニテ古ニ云フ附牙

癰ニ非ス今姑ク師說ニ從テ陰發ノ證ヲモ此ニ載ス
 ○治法陽發ノ者ハ日ニ刺シテ膿血ヲ去リ跡ヘ金鎖
 匙ヲ傳ヘシ内服ハ尚足飲涼膈散。加石膏。清胃散等ヲ
 撰用スヘシ齒牙ノ脱落スルハアレト死スハ決
 シテナシ陰發ノ者ハ舌疽ノ類ニシテ百死一生ナシ
 姑ク崑崙散ヲ外用トシテ清胃散。甘露飲。附子理中湯
 ノ類ヲ撰用スヘシ

附牙癰主治方

清胃散準繩治膏梁積熱。唇口腫痛。齒齲潰爛。焮痛連頭
 面。或惡寒發熱上

升麻 二錢 生地黄

牡丹皮

黃連

當歸

酒洗各一錢

右五味水煎痛未止石膏之類可量加

尚足飲

涼膈散加石膏

甘露飲

附子理中

湯

金鎖匙

冰硼散

崑崙散

齲齒

齲齒ハ素問ニ出ツ史記倉公傳ニモ齊中大夫病齲齒ト見ヘテ古ヨリ有ル病也俗ニ「ムシ」ト云フ又ハ齒牙ノ朽タル處へ蟲ノ生シタル義ニテ説文ニ齲ハ蠹ナリト云ニ本キテ名ケタルナルヘシ又ムシハ熱ノ蒸ス義也ト云フ説モアレ氏穩ナラス此病ハ齒牙ノ病テ自ラ枯ル、ナリ齒牙枯ル、寸ハ無用ノ長物トナリテ竹木刺ノ肉中ニ在ト同様エ工疼痛ヲ發スルナリ初發飲食スル毎ニ冷物熱飲ナト大ニ染ミ硬物ヲ食スル寸ハ疼痛シ漸久シテ齒牙焦黑色ニ變シ潤澤

ヲ失ヒ或ハ朽テ孔ヲ生シ或ハ齒牙片々ニ碎ケテ牙
 根ノミ齦中ニ残り或ハ朽タル孔ノ中ニ食物瘀滯腐
 敗シテ細蟲ヲ生スルコトアリ發スル寸ハ痛ミ甚シテ
 飲食モナラス言語モナラヌ程ノモノナリ遂ニ頰ニ
 腫レ出シテ痛ノ減スルコトアリ敷藥等ニテ一旦愈レ
 尺數再發シテ久シク愈サル者多シ或ハ齒牙ノ自ラ
 脱落シテ自ラ愈ル者アリ又齧齒久ク愈スシテ遂ニ
 骨槽風ニ變スルモノアリ○治法世ニ妙藥名灸等多
 アレ尺寸効ヲ奏セス妙藥名灸ニテ愈タリト云フハ
 自然ニ愈タルニテ藥効ニアラス予モ金鎖匙氷礪散

崑崙散等ヲ用フルコトアリ姑責ヲ塞クノミニテ十全
 ノ効ヲ要スルニ非ス第一ノ良策ハ齒牙ヲ抜キ去ル
 ヘシ先齒牙ノ朽タルト未朽トヲ熟視スヘシ朽牙ヲ
 妄ニ抜ク寸ハ半ヨリ折テ根ノ脱ヌモノナリ又齒牙
 朽盡テ根ノミ齦中ニアルモノハ牙縫ノ内外ヲ鑷ニ
 テ深ク切り創口ヘ猛乘丹ヲ入レ齒齦腐蝕シ牙根ヲ
 露ハシテ後ニ術ヲ施スヘシ未朽牙モ前方ノ如ニシ
 敷動カシテ動ノ付キタル寸ニ術ヲ施スヘシ其術骨
 槽風ノ灸ニ載セタレ尺未善ヲ盡サス其後齒牙ヲ拔
 了益多クシテ其術ノ肯綮ヲ得タリ故ニ再ヒ此ニ記

ス其法醫患者ノ前ニ跪キ假令ハ左牙ヲ抜ント思ハ
 ハ左手ノ食指ヲ手帕ニテ裹ミ病牙ノ内ニ當テ右手
 ニテ槽柄ヲ持チ病牙ノ外へ當テ内外相應シテ端的
 ヲ定メ一人ノ价者左側ニ坐シ木槌ヲ持チカラ極メ
 テ槽柄ヲ打ツ寸ハ齒牙脱然トシテ落テ痛モ亦失ス
 ルカ如クニ去ルナリ跡ニテ血ノ多ク出ルモノハ金
 鎖匙ヲ創口へ入レ紙ヲ揉ミテ其上へ當テ指ニテ緊
 ク按ル寸ハ立ニ止ムナリ牙科ハ止血ノ法ヲ心得ヌ
 ヌへ出血ニ驚キテ狼狽ルナリ病人モ其騷ニ懲リ
 テ齒牙ハ抜マシキモノ、様ニナリタルハ歎スヘキ

一ナリ予カ術ヲ會得スレハ容易ニ抜ケルナリ又大
 出血等ノ患ナシ惟上牙ハ頭顱へ響ク故妄ニ抜クへ
 カラス得ト動シテ後ニ術ヲ施スヘシ此術十全ノ良
 法ナレ氏臆病ノ者へハ施シ難シ其者ニハ牙縫ヲ深
 ク切テ血ヲ出シ跡へ金鎖匙ヲ附ケ尚足飲ヲ與フへ
 シ若シ切ルハ淺クシテ血出ルハ少キ寸ハ却テ痛ノ
 益モノナリ随分縦意ニ切ヲ佳トス若此術ヲモ施シ
 難キ者ニハ阿芙蓉ヲ梧桐子ノ大サ程朽牙ノ内へ入
 ルヘシ亦阿芙蓉液ヲ内服スルモ奇驗アリ内藥ハ始
 終尚足飲ヲ用フヘシ又法此病ハ頰顙ノ下邊ニ必結

癰疽
和
金

雜

齒痛

核アリ強ク按スレハ齒牙ニ應スル也其結核ヲ撮ミ
 上テ灸ヲ炷ル一六七壯ニ至ル寸ハ必ス奇驗アリ又
 其核へ鍼ヲスルモ効ヲ奏ス繆刺論ニ齒齲刺手陽明
 不巳刺其脉入_上齒中者立巳ルト云へり刺法モ古法ナ
 リ又糞蛆退數十枚ヲ燒灰ト為シ紅絹ニ裹ミ_上捺テ乳
 頭ノ如クニ造リ病齒ニテ緊咬寸ハ痛立ニ止ムナリ
 又方巴豆或ハ丁香ヲ病齒ニテ緊咬モ亦奇驗アリ食
 物ニ章魚明燻木魚干柿等ノ物ヲ嚴禁スヘシ
 齲齒主治方
 尚足飲 金鎖匙 崑崙散 冰硼散 阿芙蓉

蓉 阿芙蓉液

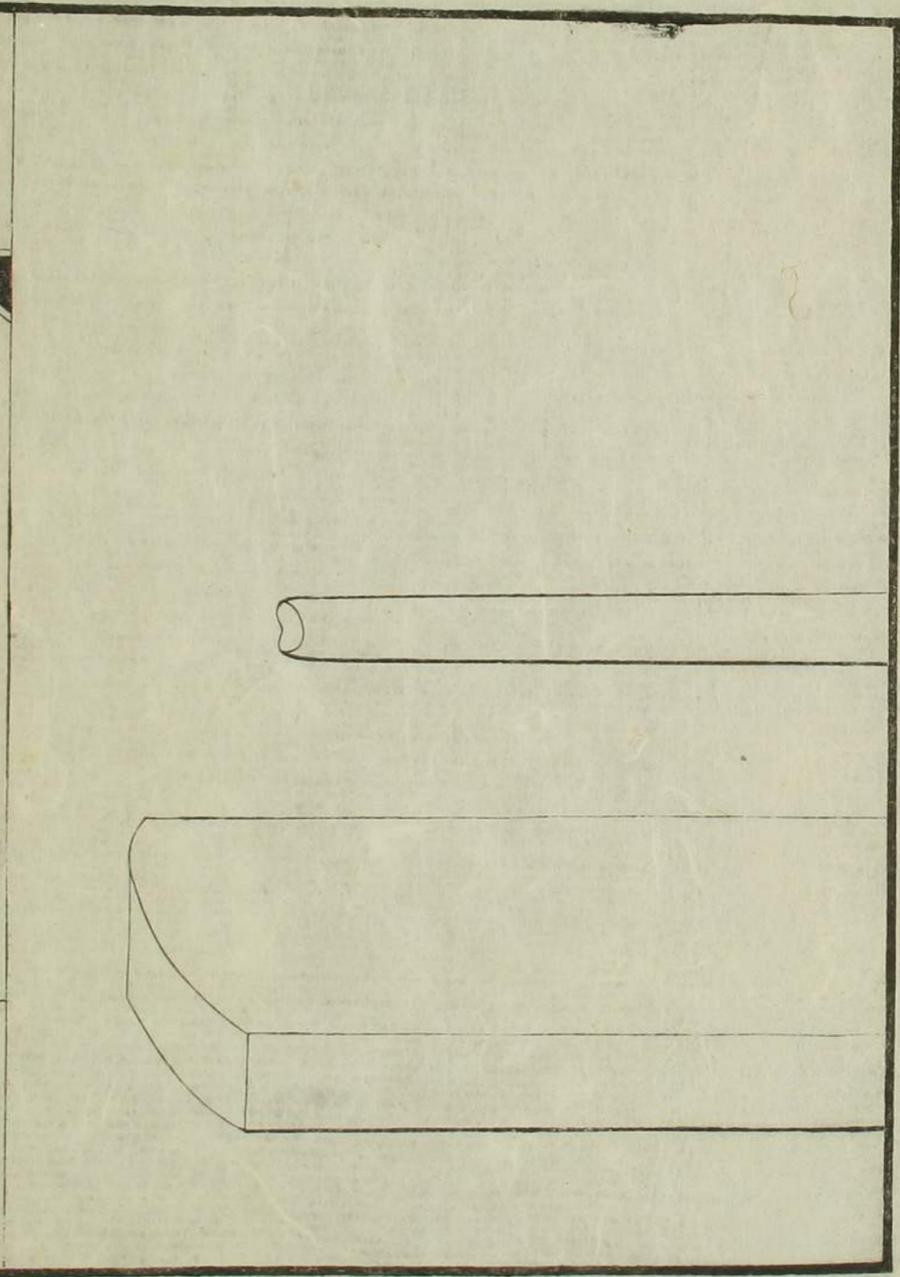
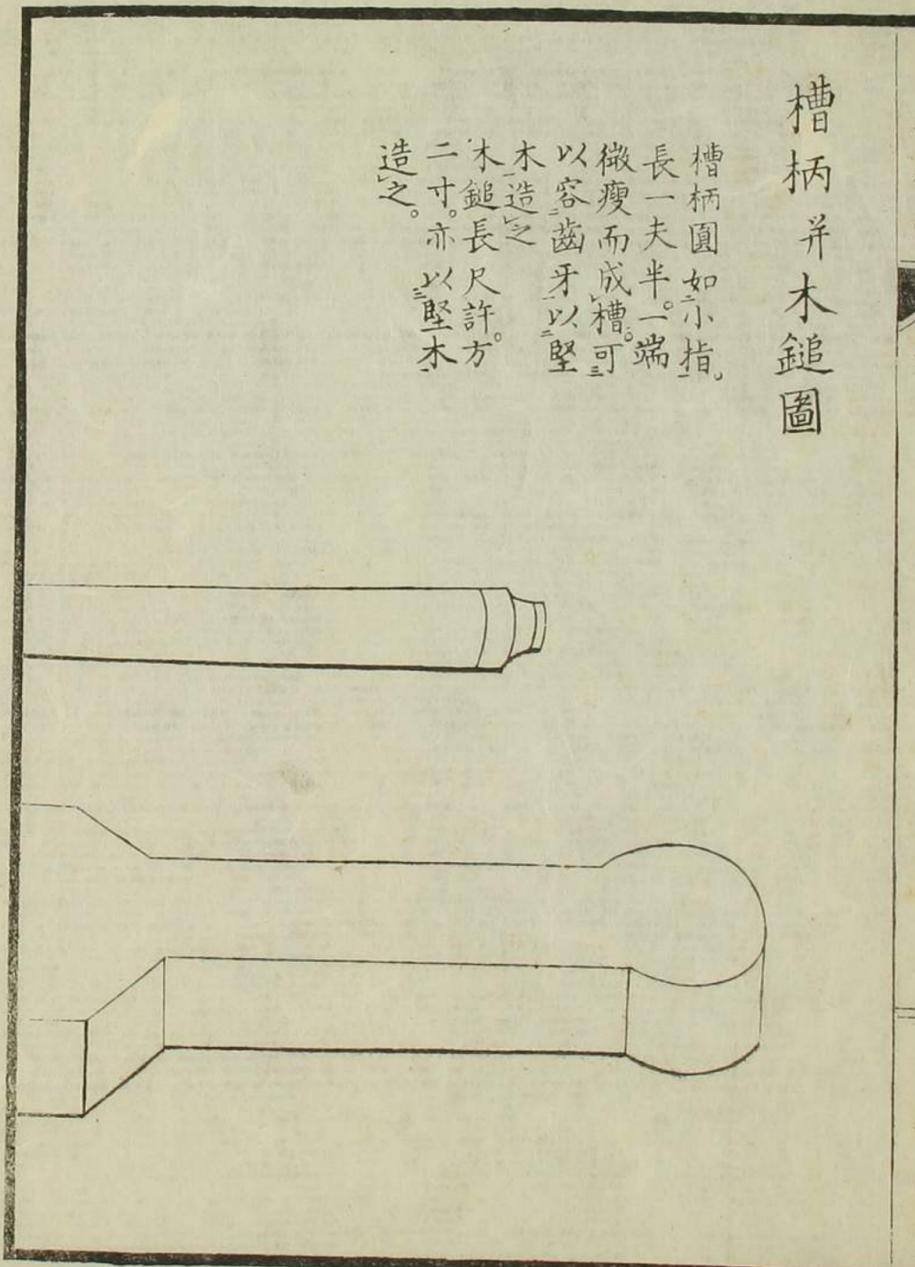
醫科必錄 卷八

〇六十一

自準亭藏

槽柄并木鋸圖

槽柄圓如小指
長一夫半一端
微瘦而成槽可
以容齒牙以堅
木造之
木鋸長尺許方
二寸亦以堅木
造之



法先ツ腋下ノ毛ヲ拔去リ銅器ニテ酢ヲ温メ清ク洗
 ヒ跡へ檀礬散ヲ傳ヘシ又方正宗ノ五香散ニ宜シ又
 方青木香石灰ノ二味ヲ細末トナシ腋下ニ敷ヘシ又
 方水銀胡粉ノ二味ヲ胡麻ノ油ニ和シテ傳ヘシ又方
 石灰一味ヲ三年ノ苦酒ニ和シテ傳ヘシ又方胡粉銅
 青ノ二味ヲ乳汁ニ和シテ傳ヘシ腋臭ヲ治スルノ方
 多クアレ氏約スルニ水銀礬石銅青石灰胡粉苦酒ノ
 數品ニ過キヌ是トテモ一旦ノ功ヲ得ルノミニテ根
 治スルヲ能ハス今姑治療ノ法方ヲ舉ルノミ

體氣主治方

檀礬散 叢桂 治腋臭方

白檀 枯礬各二錢 輕粉五分

右三味為末。温湯洗腋下。而後塗散少許。又生陰蝨者。

將散摻毛中。即去

五香散 正宗

沈香 檀香 木香 零陵香 各三錢

麝香 三分

右五味共為細末。每用五厘。津調。搽擦兩腋下。三日一
 次。或用香末二錢。絹袋盛貯。掛於腋下。亦効矣。

